

プレス・リリース

マグリット美術館
ブリュッセル

2009年6月2日オープン

2009年6月2日、ブリュッセルにおいてマグリット美術館が一般に向け公開されます。20世紀の最も著名な芸術家の一人であるマグリットに捧げられた、この規模としては初の美術館となります。

マグリットに関する情報を集めた国際センターとなるべく創設されたこのモダンな美術館では、世界最大のルネ・マグリットのコレクションが初めて展示されます。

マグリット美術館の創立支援企業 GDF スエズ・グループ、ベルギー王立美術館、マグリット財団、建造物公団および学術政策審議会との間の斬新ともいえるパートナーシップが、これまでベルギーでは見られなかった専門的メセナを通じ、新たな文化・観光拠点を形作る基礎となりました。

マグリットの魅力を詰め込んだ宝石箱

1年間続いた工事は GDF スエズのチームが担当し、ロワイヤル広場に立つ新古典様式建築のアルテンロー館の現場は『光の帝国』に着想を得た巨大なシートで覆われ、マグリットの世界が再現されていました。この工事により、アルテンロー館は現代芸術の基幹となる美術館へと生まれ変わりました。

GDF スエズが確立した最新の教育的美術館管理法により、ベルギー王立美術館とマグリット財団は世界でもっとも大規模なルネ・マグリット（1898～1967）のコレクションを床面積 2500 m²、5階にわたって一般に公開する運びとなりました。200点にのぼる類まれな作品が初めてまとまった形で展示され、年代別や主題別といったさまざまな解釈ごとに分類されています。

ブリュッセル自由大学ルネ・マグリット研究センターのアーカイブより補完されたマグリット美術館は、アムステルダムヴァン・ゴッホ美術館やベルリンのパウル・クレー・センターと同様、ルネ・マグリットの人生、思想および作品の研究、媒介そして紹介のための初の国際的専門機関となるはずです。

マグリット美術館は、この画家の揺籃の地でもありヨーロッパの首都でもあるブリュッセル中心地という絶好の立地条件に恵まれています。ベルギー王立美術館に属し、古典美術館と近代美術館、ウィールツ美術館、ムニエ美術館から成る貴重な全体の一翼を担っています。

世界でもっとも大規模なルネ・マグリット・コレクション

ベルギー王立美術館はマグリット財団の協力を得、この画家の世界でもっとも優れたコレクションを所有しています。マグリットの経歴を忠実に再現するこのコレクションは、ほかに匹敵するものがない豊かな内容を誇っています。傑作も数多く（『光の帝国』（1954）、『帰宅』（1940）、『シェラザード』（1948）など）、技法も素材も多様性に富み（絵画、デッサン、グアッシュ、写真、彫刻、オブジェ、映画フィルム、ポスター、広告など）、そして画家の生涯の各時代が完璧に再現されています。

展示される作品はおもに「イレーヌ・スキュトゥネール＝アモワール」の遺贈、ジョルジェット・マグリットの寄贈およびベルギー王立美術館の購入品から構成され、個人所蔵の未公開作品も貸し出されます。

新世代の専門美術館

ベルギー王立美術館館長ミシェル・ドラゲが言うところの「伝記についての現代的考察」であるマグリット美術館は、多分野にわたる教育的でインタラクティブな美術館です。マグリットの作品、思想、生涯を発見するための最新の技術が導入されています。

マグリットの多分野にわたる芸術活動にならい、マグリット美術館はまた、画家をめぐる**芸術的・学術的交流基盤**になることをも目指しています。アーカイブや未公開資料もアクセス可能になり、作品を比較する形での展覧会も画家の経歴の変化を際立たせてくれるでしょう。

GDF スエズによるベルギー初の専門的メセナ

マグリット美術館はベルギー王立美術館、建造物公団、学術政策審議会、マグリット財団および美術館の設立支援企業 GDF スエズの間の**斬新なパートナーシップ**によって日の目を見ることとなりました。

GDF スエズはそのベルギー支社およびフランス支社の協力によって、650 万ユーロ相当の**独創的かつ野心的な専門的メセナ**を実現しました。エネルギー効率、再生可能エネルギー、技術設備工事、情報システムなど、このフランス・ベルギー両国にまたがるグループのノウハウが作品の保管や活用、知識の伝達、持続可能な開発、そしてイノベーションに利用されました。

国際レベルの美術館管理計画に私企業がみずからの経験とノウハウを注ぎ込むのは初めてに近いことです。この特別なパートナーシップに対し 2008 年、メセナのひとつであるベルギー大企業文化活動よりカイクス賞が授与されました。ベルギーではこの種の初の専門的メセナです。

多才な画家ルネ・マグリット

画家、デッサン画家、版画家、彫刻家、写真家、そして映画人でもあったルネ・マグリットは、もともと優れたシュールレアリズムの芸術家のひとりに数えられ、**20 世紀ベルギーのもっとも重要な画家**と見なされています。表現形態に対する批判的分析の破壊性と、イメージの概念化で名高いマグリットは、ベルギー王立美術館館長ミシェル・ドラゲによれば「詩的イメージを造形詩に変えた男」といえます。

その作品においてマグリットは、イメージに驚愕させる力を与え、自明の理を神秘へと変形させるため、絶えず手がかりを消していきます。彼の「絵画—文字」の詩的誇張は反抗への希求と切り離せず、それによってマグリットは対象の新たな様態を強調しているのです。この革新的な探求によりルネ・マグリットは、ポップアートやコンセプチュアルアートのような現代芸術運動のはるか先を走っていたといえるでしょう。